

九州ネット

7月13日
2013 第3号

九州体育・保健体育ネットワーク研究会



鹿児島県開催 <黒豚ラウンド>

H25.7.13 (Sat)

鴨池公民館

猛暑の続く中、この日も元気に活動中の桜島が見守る中、海外から1名、県外から9名、県内から33名、合計43名の方々の参加をいただき、今年度第3回目の九州体育・保健体育ネットワーク研究会<黒豚ラウンド>を開催しました。去年の長崎ちゃんぽんラウンドに引き続き、アメリカからスーザーランド先生にお越しいただき、世界との繋がりと英語の大切さを肌で感じることであった熱い一日でした。



1 トピックス：世界の体育の動向



通訳の吉野先生とスー先生

オハイオ州立大学のスーザーランド先生による「Adventure-based Learning Physical Education」（体育における冒険教育）について、発表をいただきました。

教えるよりも活動を活発に行えるよう支援すること、話し合いを活動に入れること、コミュニケーションを系統立てて学習すること、5つの約束（安全、協力、賞賛、中傷しない等）など、茨城大学の吉野聡教授の通訳のお陰で、この冒険教育についての理解を深めることができました。技能を獲得することが目的ではない「体ほぐし運動」のベースとなっていることに気付かされました。

2 実践報告：「鹿児島県内研究校の実践報告」

平成24・25年度、鹿児島県の「たくましい”かごしまっ子”」育成推進事業の推進校である始良市立三船小学校の井芹賢二先生による実践報告をいただきました。

取組の一例として、シンキングタイムを設定することにより、子どもたちの思考力・判断力・表現力の育成やコミュニケーション能力の育成を図ることが挙げられました。意見交換の際、グループ作りの難しさ（リーダーシップを取りたがらない、何を話してよいか分からない等）が話題になりました。スー先生から「マンツーマンから始めて、少しずつグループの人数を増やしていく」というアドバイスをいただきました。



三船小学校 井芹先生

3 情報提供：「体づくり運動の授業について」



鹿児島県総合体育センターの伊地知裕研修係長から、5月(in 沖縄)の「子どもの体力向上指導者養成研修」で行った「体づくり運動の授業づくり」についての情報提供と鹿屋体育大学佐藤豊教授による「体づくりタブレットの使い方」を含めた体づくり運動について、まとめていただきました。

今回の黒豚ラウンドは、スー先生の冒険教育に始まり、実践報告、情報提供から体育科教育が目指す方向性は日本も世界も共通であることが分るとともに、自分自身のコミュニケーション能力の育成を磨いていく必要性を強く感じた研究会でした。（報告：岩下）

次回、9月7日(SAT) 長崎ちゃんぽんラウンド！

